

会 議 録

会 議 名	令和５年度第３回小金井市史編さん委員会		
事 務 局	生涯学習課 文化財係		
開 催 日 時	令和６年２月５日（月）午後２時から３時１５分		
開 催 場 所	市役所第二庁舎８０１会議室		
出 席 委 員	根岸委員長 牛米委員 中嶋委員 井上委員 日高委員 神山委員 大熊委員		
欠 席 委 員			
事 務 局 員	三浦生涯学習課長 碓井文化財係長 高木主任（学芸員） 海谷文化財センター職員		
傍 聴 の 可 否	可	傍 聴 者 数	０名
傍聴不可・一部不可 の場合は、その理由			
	１ 報 告 (1) 「ビジュアル版 小金井市史」（仮）の検討状況について (2) 調査員の活動について (3) 主催事業の結果 ア 地域史講座「縄文遺跡と土器のみかた」 イ 企画展「明治の旧公図」 (4) 多摩郷土史フェアについて ２ その他 ３ 次回の会議日程 令和６年５月１７日（金） １５時から		

会 議 結 果

三浦生涯学習課長	ただいまより、令和５年度第３回市史編さん委員会を開催させていただきます。
碓井文化財係長	(資料確認)
三浦生涯学習課長	それでは、ここからの議事進行は根岸委員長にお願いさせていただきます。
根 岸 委 員 長	1 報告 (1) 「ビジュアル版 小金井市史」(仮)の検討状況について皆様本日もよろしくお願いいたします。 「ビジュアル版 小金井市史」(仮)につきましては、これまで「編集委員会」の場を中心に検討を進めてまいりましたが、本委員会におきましてもさらなる検討を進め、より良い「ビジュアル版 小金井市史」(仮)の作成に資してまいりたいと考えておりますので、皆様何卒よろしくお願いいたします。 それでは、次第に沿って進めさせていただきます。 まず、「1 報告」の「(1) 『ビジュアル版 小金井市史』(仮)の検討状況について」につきまして、事務局より説明をお願いいたします。
海谷文化財センター職員	現状までの検討状況についてご報告させていただきます。 令和５年１２月５日(火)開催の編集委員会において、書籍名「ダイジェスト版」は要約的な色合いが印象付けるタイトルと考えられることから、刊行趣旨に照らして「ビジュアル版」が適切ではないか、という方向性が示されました。今後、本委員会でも、現時点の仮称で、「ビジュアル版小金井市史」と呼ばさせていただきます。 続いて、これまでの市史編さん委員会における「ビジュアル版小金井市史」に関する決定事項並びに検討中の内容について確認させていただきます。 判型は、A４版・オールカラーで、総ページ数は１４０ページ程度のものとします。文章による解説も掲載いたしますが、写真・図版等の、ビジュアル面からの理解を促していくものを主とします。国分寺市刊行『国分寺市の今昔』等を参考とさせていただきます。 紙媒体の印刷物を基本といたしますが、「子ども向け」ということは特別意識しないながらも、学校教育現場での活用を想定し、印刷物以外に「デジタル機器による閲覧・検索」に対応可能な形式のものを合わせて作成することを検討してまいります。 刊行スケジュールは、市制施行７０周年に当たる令和１０年度の秋頃の完成を想定させていただいております。

	令和５年度に仕様を確定し、令和６～８年度に原稿執筆及び図版の作図作業を行い、令和９年度に校正作業及び仕上げ、令和１０年に刊行というのが大まかな計画となります。 時代毎の文量（ページ数）は、既刊の「小金井市史通史編」の時代毎のページ数の割合に準じつつ、実情に応じて所要の調整を行っていくことを基本とする、というのが編集委員会議の見解となります。なお、単位については「見開き」とし、Ａ４サイズの冊子を開いた際の「見開き」を一つの単位とします。 さらに、時代区分毎に扉ページに簡略化した年表を記載し、「タイムスケール」としての日本史の流れと「小金井」の移り変わりの対比についても分かりやすく表記することとします。 今後は、各見開きのテーマ設定の検討を進めさせていただくこととなります。例えば、原始については「水源地と縄文集落の位置図を現代の地図と対照して載せる」案、近世では「文書をカレンダー形式で見せる」案などが挙がっています。小金井村成立以降の時代区分については、「小金井市史通史編」の内容に単に準じるだけのものではなく、なかなか表現し難いことから、既存市史の内容に必ずしも縛られることなく、見開き単位でビジュアル的に見せやすいトピックを紹介していく、というお考えもいただいています。 現代では終点をどこに設定するのか、詰めていく必要があります。ほか、適宜「コラム」を設ける案も出ています。 今後の作業予定につきましては、事務局主導で「原稿・図版」案の作成を進めていき、委員の皆様からご意見を伺いながら作成していきます。
根 岸 委 員 長	ありがとうございました。 「ビジュアル版小金井市史」に関しましては、これまで数回の編集委員会議を通じて、その「判型・体裁・内容」等について議論を重ねてまいりました。また、既刊の「小金井市史（通史編）」や「小金井市史（資料編）」と役割として相互補完することを意識し、「見やすさ・わかりやすさ・親しみやすさ」等を重視していきたい、という方向性が定まってきた、という印象を持っています。 ただし、未だ実際に作業を開始しなければ見えてこない部分が多い、と感じており、是非委員の皆様からご意見等いただければ、と思いますが、何かご意見・ご質問等いかがでしょうか？
神 山 委 員	「ビジュアル版小金井市史」につきましては、「見やすさ」を重視し、図版や写真等を多用する、とのご説明でしたが、刊行の際のウェブ展開についてはどのように考えておられるのでしょうか？単なるPDF版の刊行に留まらない、アーカイブ化等のご検討はされているのでしょうか？

海谷文化財センター職員	「デジタルアーカイブ化」に関する議論は、本委員会の所掌を超える内容が多く、編集委員会議において、本委員会における議論については、刊行物の作成に向けた議論・検討を行う、という整理を行ったところです。
神 山 委 員	技術的に高レベルのものについては、現状ではなかなか難しい、と考えます。ただし、「ビジュアル版小金井市史」の刊行に際しては、「子ども向け」ということは特別意識しない、とのご説明をいただきましたが、ウェブ限定でも、例えば「キッズページ」のような形の、子どもにとっての「入口」としての展開が期待できるものがあると面白いのではないかと考えました。
根 岸 委 員 長	ありがとうございます。 「ビジュアル版小金井市史」の刊行に際し、「子ども向け」ということを特別意識しないこととした経過につきましては、当初は「子ども向け」を意識した刊行物の刊行に向け、検討を進めていましたが、「学習指導要領との整合性」「教職員の参画の必要性」等の難題があったこと、また、他自治体における「子ども向け」市史の事例研究を行う中で、「子ども向け」と謳っていながらも、非常に高度な内容が含まれ、表題と内容が合っていないものも散見されたことなどから、「子どもでも理解できるように」というコンセプトは維持しつつも、子ども向けに特化することや、学習指導要領との整合性を意識することはしない、という整理を行い、「子ども」という表記を外した、という経過がございます。
神 山 委 員	ありがとうございます。 刊行物の作成に当たっての基本的な考え方としましては、それではよろしいのでは、と考えております。 ただし、もしウェブ展開を想定されている、とのことであれば、「入りやすい」入口が用意されていることで、アプローチの仕方が変わってくるのでは、と考え、意見として申し上げさせていただきました。
根 岸 委 員 長	大変貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。いただいたご意見を参考にさせていただきながら、また本委員会や「編集委員会議」の場において議論・検討させていただければ、と考えております。 他にご意見・ご質問等ございますでしょうか？
井 上 委 員	着実に歩が進んでいる、ということがわかり、非常に安堵しています。
根 岸 委 員 長	具体的な項目につきましては、ビジュアル的な見やすさ、わかりやすさを念頭に、今後より一段検討を進めてまいりたいと考えています。

	他にご意見・ご質問等ございますでしょうか？
大 熊 委 員	先ほど神山委員よりご提案のあったウェブ限定の「キッズページ」は非常に興味深く、現在の子どもたちは全員が1人1台のパソコンを所持している中で、「自分で調べること、わかることができる」という状況を作ってあげたい、という思いはあります。 「子どもたちが全員パソコンを所持している時代に、『小金井市史』に興味を抱いた子どもがいつでも、どこでも、自分で調べること、わかることができる状況を生み出す。」という事業コンセプトは、市の事業として検討するに十分に足るものであると考えますし、予算上可能であれば、アーカイブ化に関する業務は、専門性を有する事業者へ業務委託することも検討して良いと考えます。 ただし、本委員会、及び編集委員会議の場でご議論・ご検討をいただく中で、「ビジュアル版小金井市史」については刊行物として作成する、という方針となりましたが、「刊行物」という媒体自体をアーカイブ化はすることはかなり難しいという印象を持っており、やはり個人的には、時代の流れとして見栄え等の観点から考えても、今後は「刊行物」としての刊行より、アーカイブ化に力点を置く、という時代が来るような気がします。
海谷文化財センター職員	「ビジュアル版市史」の他自治体事例の中で、地図を多用しているものを見てみると、情報量が多くなりすぎた結果、「石造物の地図」「新田開発の地図」のように、1冊の刊行物の中で同じ地図をいくつも掲載する必要性が生じてしまっており、やはり「掲載する情報量のキャパシティ」という観点では、圧倒的にデジタル版の方が優れている、という印象は持っています。
神 山 委 員	現在の子供たちは、やはりデジタル版の方が、目が慣れていて見やすい、というのはあるのでしょうか？
大 熊 委 員	何分時代が違うので、私たちの価値観で推し量ることは難しいかもしれませんが、ご説明いただいた地図の事例に鑑みると、やはり刊行物をPDF化したものをウェブ上に掲載するよりも、アーカイブ化の方が「見やすさ」という観点では上回るのでは、という印象を持ちます。
根 岸 委 員 長	図版の作図作業につきましては、パソコン上での作業となりますので、図版のデータを活用し、マウス操作のみで「写真」や「説明文」を簡単に画面上に出すことができる仕組みは構築可能ではないか、と考えますし、「ビジュアル版小金井市史」を刊行した後に、ウェブ上における機能を後付けで追加していく、という手法も検討できるのではないかと考えますがいかがでしょうか？

牛 込 委 員	「単に刊行物をPDF化したものをウェブ上に掲載したもの」「アーカイブ的要素を含むもの」については、個人的には両方にそれぞれニーズがあるのでは、と考えています。 ですから、どちらかに拘り過ぎるのではなく、両方あることで幅広い選択肢を示すことができるのでは、と思います。
大 熊 委 員	「見やすさ」「分かりやすさ」という部分に拘っていくためには、必要に応じてその道のプロフェッショナルである事業者と相談する必要性もあるかもしれません。場合によっては「ビジュアル版小金井市史」の刊行過程から事業者に入ってもらった方が効率的ではないでしょうか。
神 山 委 員	「ウェブ展開」「アーカイブ化」ありき、で考えるのではなく、まず、「ビジュアル版小金井市史」をしっかりと刊行することが基本であると考えます。 「ビジュアル版小金井市史」を刊行する過程において、「この部分は紙媒体の刊行物では限界を感じるが、ウェブ展開することでより見やすく、分かりやすく表現することができるのではないか。」という考え方で進めていくのが良いのでは、と感じました。 「ビジュアル版小金井市史」の内容をすべてウェブ展開する必要はないのでは、と個人的には考えていて、刊行までの過程において「どの部分が入口に適しているのか。」を見極めていく、という手法がよいのでは、と考えています。
三浦生涯学習課長	「ビジュアル版小金井市史」の刊行時期及び関連予算の予算措置につきましてご説明させていただきます。 まず、刊行時期につきましては、「市制施行70周年」の年に当たる「令和10年度」の刊行を目指す、という考え方もございますし、その前年度である「令和9年度」から始まっていく「市制施行70周年プレイベント」に合わせていく、という考え方もできるのでは、と考えております。 予算措置につきましては、刊行時期にもよりますが、令和8～9年度頃に関連予算の予算要求を行っていく形になるものと考えております。 なお、仕様につきましては、委員の皆様より「ウェブ展開」「アーカイブ化」といったお話もいただいておりますので、事務局といたしましても、庁内のデジタル担当部署とも協議を行いたい、と考えております。 私からは以上です。
根 岸 委 員 長	ありがとうございます。他にご意見・ご質問等ございますか？

日 高 委 員	「ウェブ展開」「アーカイブ化」等を考えていく場合、やはり高度な専門性を有する事業者の力を借りていく形で進めていく必要があると考えます。 「ビジュアル版小金井市史」については、刊行後に「ウェブ展開」「アーカイブ化」等を考えていくことは可能であると考えていますので、途中の過程から入っていただく形になるかとは考えていますが、専門性を有する事業者にも入っていただく形で進めていくのがよいのではないかなと思います。
根 岸 委 員 長	ありがとうございます。他にご意見・ご質問等ございますか？
中 嶋 委 員	「ウェブ展開」「アーカイブ化」等を行うことによって新たな活用方法が生まれてくることはあると思います。極論ですが、「音」を使って伝えることも可能になります。 ただし、まずは「ビジュアル版小金井市史」をしっかりと刊行することが重要であると考えますし、デジタルは利便性に優れているがゆえの展開の難しさもあると考えていますので、その点にも注意を払っていけば良いものができると思います。
根 岸 委 員 長	今後は、「ビジュアル版小金井市史」の刊行に向けた作業を進めていきながら、適切なタイミングで専門性を有する事業者にも入っていただく、という流れで進めていくのが良いかと考えています。 ただし、あくまで「ビジュアル版」ですので、デジタルの利便性ありきで考えるのではなく、「目で小金井市の歴史を理解できる」資料を刊行する、という基本を念頭に置きながら、今後の刊行作業を進めていければ、と考えています。
牛 込 委 員	「ウェブ展開」「アーカイブ化」等を考えていく場合、それは「市史編さん事業」の枠を超えて、「文化財資料の保存」といった内容にも関わってきますので、「デジタル化するために文化財資料をしっかりと整理・保全していく」ということも並行して考えていくことができると良いかと思っています。
日 高 委 員	市史編さん事業において収集した資料をデジタル化していく、或いは写真等の既にデジタル化されている資料を生かしていく、という「文化財の保全・保存事業」を、「ビジュアル版小金井市史」の「ウェブ展開」「アーカイブ化」等と連動させていく、といったことも検討できるのではないかと考えます。
牛 込 委 員	特段複雑な連携でなくとも、例えば「文化財の保全・保存事業」として、絵図等の資料を写真にしてデジタル化する、そして「市史編さん

	ん事業」においてそのデータを活用していく、というレベルの話でも良いと思います。
日 高 委 員	まずは、文化財保護審議会と市史編さん委員会の連携をしっかりと取っていくのが第一歩であると思います。 また、今後、「ウェブ展開」「アーカイブ化」等を考えていくに当たっては、高精細なデータを扱うケースも考えられると思いますが、その場合、市の公式ホームページでは容量的に耐えられない、という状況が生じる可能性が高いので、その点は課題として認識しておく必要があると思います。
大 熊 委 員	市の公式ホームページについては、今後クラウド化を予定しておりますので、クラウド化されればその点の課題は解消できると考えています。確かに、現状の市の公式ホームページではおそらく4Kの動画の公開すらも難しいと考えます。
中 嶋 委 員	「ウェブ展開」「アーカイブ化」によって、例えば地図と地図のエリア内の風景写真のデータがあれば、ウェブ上でそれらを動画で動かすことで、あたかも実際にその場を歩いているかのような感覚を得ることができる可能性もあると考えます。 当然相応の予算は必要になると思いますが、小金井市域であれば、例えば野川周辺等でそういった展開ができれば非常に面白いのでは、と考えます。
根 岸 委 員 長	今後、例えば市の公式ホームページにおいて「歴史散歩」のようなコンテンツを作成し、市史をうまく絡ませていくような展開も考えることができるのでは、とも考えますが、とりあえず現状においては、まずは「ビジュアル版小金井市史」をしっかりと刊行することに向けて取り組んでいくことでよろしいでしょうか？
委 員 全 員	(異議なし)
根 岸 委 員 長	(2) 調査員の活動について それでは、引き続きまして「1 報告」の「(2) 調査員の活動について」につきまして、事務局より説明をお願いいたします。
高木主任(学芸員)	市史編さん事業において、調査員は現在1名委嘱させていただいており、日々、調査活動をお願いしております。このたび、令和5年度の調査活動について纏めさせていただきました。主に近代史・現代史における小金井に関わる文献調査になります。 令和5年度は、配布資料の通り、鉄道・戦争・軍関係・軍需工場・戦後復興・緑地計画・社会問題・都市化・市民活動・ごみ問題に関す

	る小金井の資料を探していただいております。 ご報告の内容につきましては、その一部は今後「ビジュアル版小金井市史」の刊行に際して参考にできるものと考えています。 今後も多方面から資料を収集し、調査・研究を進めてまいりたいと考えております。
根 岸 委 員 長	ありがとうございました。ただいまのご説明につきまして、何かご意見・ご質問等ございますでしょうか？いかがでしょうか？
日 高 委 員	東京学芸大学の周辺に存在していた陸軍技術研究所に関する資料はどの程度残っている感じでしょうか？防衛省の防衛研究所等には残っている見込みはありそうですか？
高木主任（学芸員）	現代編を編纂後に、「アジア歴史研究アーカイブ」等で少しずつ情報公開も進みつつあります。
日 高 委 員	東京学芸大学につきましては、引き継いだ資料は一切ないことから、残されている資料はないと考えています。ですので、今後も調査に進展がありましたら情報提供いただければ幸いです。
中 嶋 委 員	陸軍技術研究所について、一定、調査が完了した際には調査結果を纏めた報告書を作成する、という理解でよろしいでしょうか？
高木主任（学芸員）	調査成果について適切な時期に「報告書」等の形に纏める必要はある、と考えています。
中 嶋 委 員	「小金井市史通史編」及び「資料編」の執筆作業を行っていた際に、関連データが資料としての用に供するに堪えなかったことがありました。調査結果次第では「中間報告」の体でも構いませんので、資料を纏めておく、ということをお願いさせていただきたいと思います。
根 岸 委 員 長	貴重なご意見ありがとうございます。本調査に関してはもちろんのこと、これまで「市史編さん事業」において行ってきた多くの調査につきましても、その成果を何らかの形で纏めることが可能なものについては、ぜひ「資料集」として纏めていただけると今後のためにも良いのでは、と考えますので、是非ご検討いただければ、と思います。 本件につきまして、他にご意見・ご質問等ございますでしょうか？よろしいでしょうか？
委 員 全 員	（特になし）
	(3) 主催事業の結果

根 岸 委 員 長	ア 地域史講座「縄文遺跡と土器のみかた」 イ 企画展「明治の旧公図」 それでは、引き続きまして「1 報告」の「(3) 主催事業の結果」につきまして、「ア 地域史講座『縄文遺跡と土器のみかた』」「イ 企画展『明治の旧公図』」を合わせて事務局より説明をお願いいたします。
高木主任（学芸員）	ア 地域史講座『縄文遺跡と土器のみかた』 講師には元市史調査員の中山真治氏をお招きし、縄文遺跡に関するご高話をいただきました。3回講座として、初回「縄文遺跡に関する総論」、第2回「小金井における縄文遺跡」、第3回「土器の成り立ち等の考古学的な研究」という構成でした。 イ 文化財センター企画展『明治の旧公図』 小金井市役所資産税課において保管している「明治時代の公図」を公開・展示いたしました。旧公図は、明治～大正期の土地利用の変遷が記載されている資料であり、歴史的な観点においても非常に興味深い資料です。その旧公図を一部公開いたしました。令和5年11月1日からの50日間開催し、来館者数は1,051名でした。古地図とは性格の異なる旧公図をテーマとした企画展でしたが、興味を持っていたのではないかと考えています。
根 岸 委 員 長	ありがとうございました。ただいまのご説明につきまして、何かご意見・ご質問等いかがでしょうか？
日 高 委 員	「地域史講座」及び「文化財センター企画展」につきましては、令和6年度のテーマ等は既に決まっているのでしょうか？
高木主任（学芸員）	検討中です。
根 岸 委 員 長	「旧公図」につきまして、非常に大きいものではないかと思いますが、写真撮影等はされていますか？
高木主任（学芸員）	「旧公図」は、市域を100分割しているもので、1枚のサイズは、およそ「A2～A3判」程です。文化財センターにおいてスキャンして、可能な範囲でデータ化を図っています。 ただし、より高い精度を求める上では、専門業者への委託等も検討すべき、という認識は持っており、今後の検討課題と考えています。
根 岸 委 員 長	「小金井村」及び「貫井村」につきましては、明治時代初期の貴重な絵図が残されており、「小金井市史（通史編）」にも掲載されていますが、やはり画像データの「歪み」はあるということ、及び、それらのデータを「旧公図」の画像データと比較・照合することで新たに判明する史実もあるのでは、と考えられることや、今後「ビジュアル

	化」の展開も想定していること等を鑑みると、きちんとした形でデータ化し、保管しておく必要はあると考えています。 本件につきまして、他にご意見・ご質問等ございますでしょうか？よろしいでしょうか？
委 員 全 員	(特になし)
根 岸 委 員 長	(4) 多摩郷土史フェアについて それでは、引き続きまして「1 報告」の「(4) 多摩郷土史フェアについて」につきまして、事務局より説明をお願いいたします。
碓井文化財係長	それでは、「多摩郷土史フェア」につきまして、私の方からご説明させていただきます。 多摩地域市町村の文化財行政担当者が一堂に会し、各自治体の文化財関連の多様な刊行物を、即売会形式で販売する「多摩郷土史フェア」は、令和5年度におきましては、「令和6年1月20日（土）～21日（日）」の2日間、立川市の「立川市女性総合センターアイム」にて開催をされました。 主催者である東京都市社会教育課長会の今年度会長市である八王子市、会場市である立川市をはじめ、参加された22市町の担当者の皆様並びにご参加いただいた参加者の皆様に、この場をお借りして御礼申し上げます。 令和5年度の「多摩郷土史フェア」におきまして、小金井市のブースにて刊行物をご購入いただいた方の人数及び売上金額につきましてご説明させていただきます。 ご購入いただいた方の人数は、1日目の「令和6年1月20日（土）」は26名、2日目の「令和6年1月21日（日）」は17名で、2日間合計で43名の方にご購入いただきました。売上金額は、1日目の「令和6年1月20日（土）」が17,150円。2日目の、「令和6年1月21日（日）」が20,750円で、2日間合計で37,900円でした。 小金井市のみで申し上げますと、購入者数、売上額ともに、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により3年ぶりの対面即売会の開催となりました令和4年度より、数字を伸ばすことができました。 理由といたしましては、文化財ブックレット等の、価格・サイズ面において手に取りやすいものを非常に多くご購入いただいたことや、ブース内におきまして、「名勝小金井桜名勝指定100周年記念事業」の一環として作成した「記念ポストカード」及び「記念ステッカー」を無料配布させていただいたことで、小金井桜に関する刊行物である「名勝小金井桜絵巻」を多くご購入いただいたこと等が挙げられると考えています。 なお、当日は、「市史編さん事業」関係者の方では、市民協力員の

	閑野氏が、現地に足をお運びくださり、お声がけをいただきました。 今回の成果、課題につきましては、今後の刊行物計画の立案の際の参考にさせていただきたいと思います。 以上で私からの説明を終わらせていただきます。
根 岸 委 員 長	ありがとうございました。ただいまのご説明につきまして、何かご意見・ご質問等いかがでしょうか？ 「多摩郷土史フェア」につきましては、かなりの長期間にわたり、継続的に開催されています。
碓井文化財係長	令和５年度の開催で、第３６回の開催となりました。
牛 込 委 員	平成初期から継続的に開催されています。私も１日目、２日目両日とも、昼頃に参加しましたが、かなり賑わっている印象を受けました。 また、２日目には会場の別フロアで、会場市の立川市主催の講座が開催されていたので、小金井市のブースにおいて２日目の方が売上金額が多かったのは、専門家の方が多く来たことで単価が上がった、という面もあったのではないかと、思います。
根 岸 委 員 長	本件につきまして、他にご意見・ご質問等ございますでしょうか？よろしいでしょうか？
委 員 全 員	(特になし)
根 岸 委 員 長	地域史に興味を持っている方々が、各市町村を回ることなく１か所で多くの自治体の刊行物を購入できる、という点において非常に意義深い事業と考えていますので、今後も継続的に開催できると良い、と考えています。
根 岸 委 員 長	２ その他 それでは、引き続きまして「２ その他」につきまして、何かございますか？
日 高 委 員	私の所属する研究グループでは、平代坂遺跡における横穴墓を調べるために、レーダー探査を予定しています。調査成果がありましたら、本委員会においてもご紹介させていただければ、と考えておりますので、何卒よろしくお願いいたします。
根 岸 委 員 長	他にいかがでしょうか？
高木主任(学芸員)	令和６年３月３日（日）に、東京都教育委員会主催の「第４９回 東京都遺跡調査・研究発表会」が開催されます。その場において、当市

	からは「平代坂遺跡の発掘調査の成果」を報告させていただくことになりました。
根 岸 委 員 長	他にいかがでしょうか？
委員・事務局全員	(特になし)
根 岸 委 員 長	3 次回の会議日程候補 それでは、引き続きまして「3 次回の会議日程候補」につきまして、事務局より説明をお願いいたします。
碓井文化財係長	次回会議につきましては、令和6年5月17日(金) 15時から開催させていただきたい、というのが事務局案でございますが、委員の皆様のご都合はいかがでしょうか？
委 員 全 員	(異議なし)
根 岸 委 員 長	それでは、次回会議につきましては、令和6年5月17日(金) 15時から開催させていただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。 以上で、本日の議題は全て終了しました。本日の会議は、これで終了させていただきます。どうもありがとうございました。